

射法本紀詳解
全

246

195

075294-000-7

246-195

射法本紀詳解

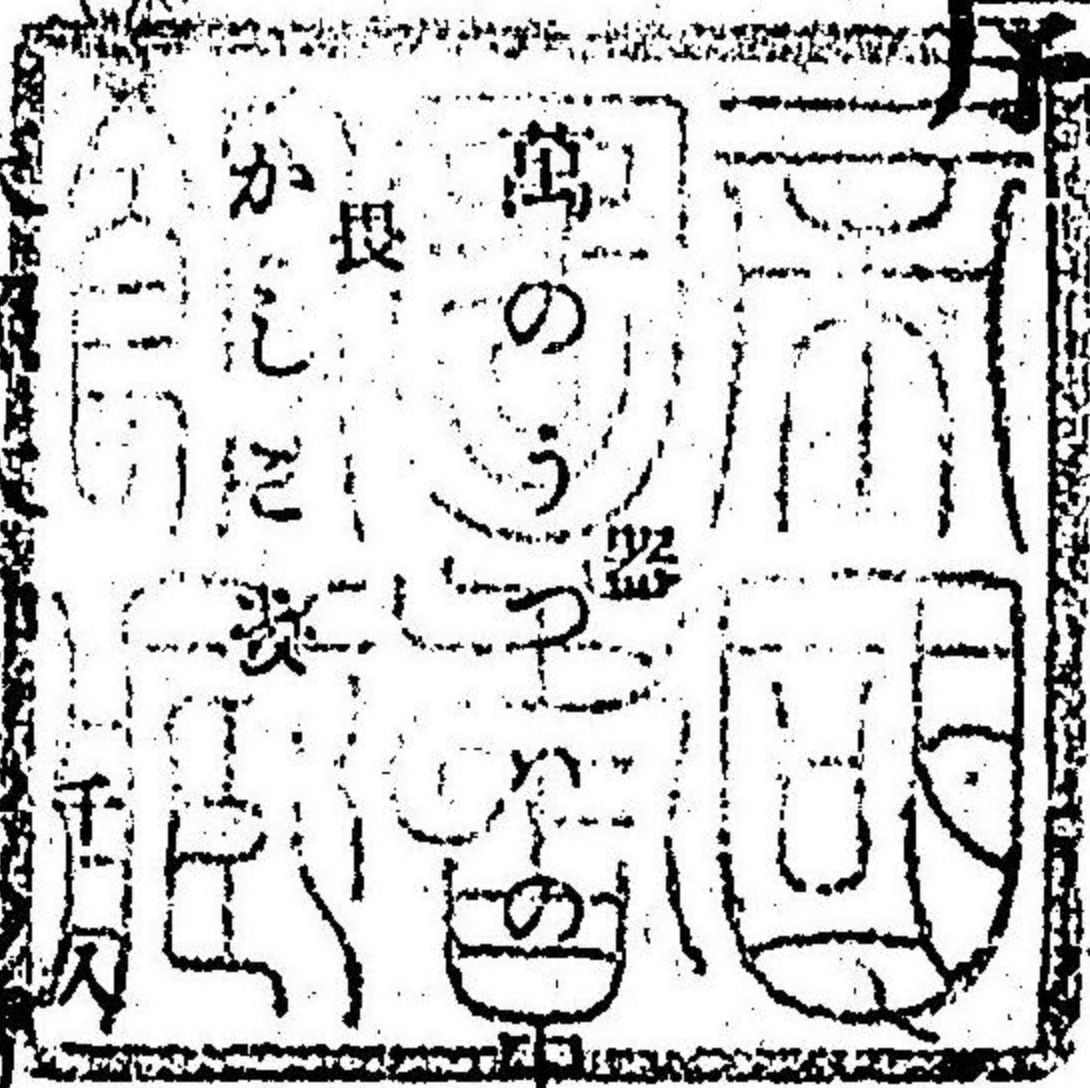
根矢 熊吉/編

M43

CEM-0212



序



弓矢ばかりたふときはあらじ。かけま

天照大神の御手 五百 いほりのゆきを負ひ附け、稜威 いづのたかこも

をこりはきゆつゑ振り立てまし、より代々の

すめみまの尊も大みてにならせらるからに、弓はみこらしの名

をも負ひけらし。おほかた今の代にありふるもの、ことさへ

くから國より來れるがさへなるに、こはかく玉ちはふ神代の

器なればこそ空みつやまこ琴ちふものすらゆつるうちなら

明治
43. 5. 27
内交

神代卷

すにおこりたれ。およそ物あれば則あり。さるを世よこの道の
のりをいふもの皇國のみに手ぶりにあらずこなすはいかにぞ
や。このふみ今の世にもてはやせるさまにかのふるま、天の
は羽矢のはゞかりもかく神のみたま恩頼のふゆもかゝるついで
にこそ、か鹿兒弓のかことばかりもほのめかす。あ明かきまこゝろ
おこなはゞ御影うつさぬ神はあらじ稱たへて筆を染むる
は明らかになをさまれる四そじあまりみこせ彌生。

生 弓 齋

射法本紀圖解

視術

兩目一視目精不之二筋云何試之初立一指誤見二指以右正左從則
兩目之一筋而見一於一

雖見一未解目眩矣以靜定之自視自目則其目不眩而明白快然

的術

一視正瞻而得無目瞬初發矢爲目瞬故鏃的虛味也依意虛目虜也云
何治之發空弓安意正淳以是習之則不目瞬由目眩也

妙術

於小成大見的精妙也
初引弓而見寸的其量如銖
脫紛解感而見其量如圓
能達氣達而見其量如倍
變成化成而見其大如圓

押術

申以淳直不以反枉
懸以大勝不以手掌
押以射肩不以手臂
肩以落下不以昇上

弓術

引術

占以屈直不以勾曲
肩以上離不以下著
懸以拇腹不以頭高
引以身氣不以手力

分術 持以無爲不以意爲
切以自期不以吾意
發以調子不以手作

以至於精至於極而能成

生得無他力不有弓力是天性射者習練則至於妙

力術

質得總有力而引大弓其能在不逆弓而以術強不以我強

習得 押以弓受不以力強
引以弦受不以力剛
分以身受不以身作
發以術受不以手爲

射法本紀詳解

射ハ弓イルト讀ミ己レ矢ヲ發シテ之ヲ遠キニ至ラシムルコトナリ。即チ射ト云フ字義ヨリスルモ身扁ニ寸ナレバ身ハ一定ノ規矩ニ從フテ矢ヲ放ツコトヲ云フナリ。法ハ度ナリ。則チリ。條理ヲ形ニ顯シテ常ニ變ラザルコトヲ云フ。本ハ根幹ナリ。法則等ノ因テ出ヅル所ヲ示シ並ビニ其法則ノ動カシ難キコトヲ本ト云フ。紀ハ紀綱等ノ紀ニシテ、筋絲ノ義ナリ。物ノ統一ヲ謀リ。物ヲ括リ治ムルコトヲ云フ。サレバ射法本紀トハ弓ヲ射ル原則ノ綱要ヲ云フ。

此書ハ聖德太子ノ御撰ニカ、ルヨシ古ヨリ言ヒ傳フト雖、頗ル疑ハシ。昔ニ此書ノミナラズ、世ニ馭馬本紀、軍旅本紀ナドア

リテ、何レモ聖德太子ノ御撰ナリト稱ス。併シ後世ニ至リテ皆我國ノ學者ノ偽書ナルベクシテ、信ヲ置クニ足ラズ。假令此書ガ聖德太子ノ御撰ニアラザルモノトスルモ、其著者ノ氏名及ビ其年號等ノ記載ナキヲ以テ見レバ少クモ鎌倉時代以前ニ著ハサレタルモノナルコトハ事實ナリ。又其文章ノ綾ト云ヘ、其述ブル事項ノ秩序的ニシテ一句一句皆現代弓ヲ學ブモノ、模範タルベキ事ヨリ推シテ考フレバ著者ハ必ズ文武両道ニ練達セルノ士タリシコト顯然タリ。

此書ガ今日ニ至リテ尙貴重サル、ハ其著者如何ニアルニアラズシテ、其内容ガ現時ノ我々射手ニ重要視サル、ニアルナリ。或ハ日置モ此射法ニヨリテ改良セルニアラザルカ。兎ニ角、此書ハ他ノ弓術書ト共ニ彼ノ三島明神ノ神庫ニ秘藏シアリ

上皇初代時。魔障神妨。天政。

シモノナリ。之ヲ日置流竹林派ノ始祖竹林如成老ガ取リテ世ニ傳ヘタルモノナリ。我ガ國ノ弓術書トシテ現存セル最古ノモノナルベク、支那ノ弓術書タル射學正宗ヲ凌グノ良書タルナリ。

上皇初代トハ神代ヲ云フ。或ハ天照大神ヲ指シ奉ルトセリ。天照大神ガ御弓ヲ執ラセ給ヘシコトハ日本書紀及ビ古事記等ニモ見エタリ。又天若彦ニ天鹿兒弓(天鹿兒弓天鹿兒矢トハ鹿ヲ射ル弓矢ト云フナリ。猪ヲ射ルコトヲ主トセルハ明カナリ。)天羽々矢(天ノ羽々矢トハ一枚ノ羽ヲ其マ、裂カズニ籠ヲ割リテ之ニ挿シ込ミテ作リタルモノナリ。即チ二枚羽ノ矢ナラシメテ射ルコトヲ主トセルハ明カナリ。)矢(天ノ羽々矢トハ一枚ノ羽ヲ其マ、裂カズニ籠ヲ割リテ之ニ挿シ込ミテ作リタルモノナリ。即チ二枚羽ノ矢ナラシメテ射ルコトヲ主トセルハ明カナリ。)云フコト今日ニテモ物ノ豐富ナルコトヲ賞スルニハバアリナド云フガ如シトセリ。)ヲ給フト

モ記シアレバ弓矢ハ神代ノ始メヨリアリシコト疑ナシ。
魔障神トハ世俗ニ云フ所ノ天狗ノ類ニハアラザルベシ。恐ラク
ハ當時朝命ニ從ハザル者ヲ指ス。例ヘバ素盞雄尊ナドヲ申スナ
ルベシ。天ノ政ヲ妨グトハ政治ノ妨害ヲナシタルナリ。

皇天造弓矢射之是射術之始也。

皇天ノ皇ハ高皇靈尊ノコト、天トハ天照大神ヲ指シ奉ル。弓術ノ
理ハ幽ニアリテ必要ニ應ジテ其形體ヲ顯ハス。サレバ茲ニ國ア
レバ必ズ弓矢アリ。弓矢ノ始リハ各國トモニ開闢ニ伴フモノナ
リ。我國ニ於テモ皇德ニ化セザル者アリテ、之ヲ威服セシムル爲
メニ弓矢ヲ造リタルナリ。即チ天ノ政ヲ妨グル所ノ魔障神ヲ降
服セシムルニ皇天自ラ弓矢ヲ造ラセ給ヘテ之ヲ射タルナリ。恐

ラク其頃ノ弓ハ天梶弓(天梶弓トハ梶ノ木ニテ作
リタル丸木弓ノコトナリ)天羽々矢ノ類ナルベシ。
之ヲ射ルニモ一定ノ法則ニヨリタルナリ。之レ射術ノ始メナリ
トセリ。後大此頃ノ射法ニ名稱ヲ附シテ日本流或ハ尊流トイヘ
リ。
此所マデガ此書ノ序文トモ見ルベキモノナリ。以下射術ヲ三章
九節ニ細別シテ説明ス。

習射術有三。

弓ヲ射習フ術ニ三通リアリトシテ以下其三通りトハ何ナルカ
ヲ逐次述ヘントスルナリ。

一的術。二弓術。三力術。

之レ即チ射術ノ三章ナリ。第一ノ的術トハ的ヲ狙フ術ナリ。的術
ヲ第一ニ置キタルハ大ニ理由ノ存スル所ナリ。抑弓ヲ射ルニ限
ラズ何事ニ於テモ苟モ其爲サントスル事柄ニハ目的ト云フモ
ノナカル可ラズ。目的ヲ立テ、後ニ之ヲ實行スルノ方法ヲ講ズ。
的術ハ即チ其目的ニ就テ如何ニ之ヲ決定スベキカヲ論ジタル
ナリ。次ニ的術ニ於テ目的ヲ定メタレバ之ニ中ツル方法ヲ講ズ
ルノ要アリ。之レ即チ弓術ナリ。弓術ヲ完全ニ且ツ圓滿ニ活用ス
ルコト之レカ術ノ本務ナリ。

其一有三。

第一章ノ的術ヲ分ツテ三節トナス。即チ視術、目術、妙術是ナリ。

一曰視術。兩目一視。目精不之。二筋云何試之。

視ハミルト讀ミテ的ヲ視ルコトナリ。目精或ハ眼精トハ俗ニ云
フ目ノ球ニシテ視神經ノ作用ニヨリテ如何ヤウニモ動クナリ。
此視術ニ於テハ先ツ兩目ニテ同一物ヲ視ルニ左右トモニ別々
ニ視ルコトアルベカラズ。事ニ據レバ一個ノ物ヲ二個ニ見ルコ
トアリ。之レ誠ニ惡シキコトナリ。此同一物ヲ二個ニ視ルハ目精
一點ニ集ラザルガ爲メナレバ第一ニ之ヲ矯正セザル可ラズ。如
何ニセバ目精ヲ二筋ニ之カシメザラシムルコトヲ得ルカ。

初立一指。誤見二一指。

初メ試ミニ一指ヲ立テ、之ヲ眼前ニ置ケ。眼精ヲ凝サズシテ、唯
茫然ト之ヲ見ルトキハ此一本ノ指モ二本ニ見ユルコトアリ。之
レ左右ノ兩眼個々別々ノ動キヲナス故ナリ。兩眼相和合シテ之

チ見ルトキハ一指ヲ誤ツテ二指ニ見ルコトナシ。

以右正左從則兩目之一筋而見一於一。

一指ヲ眼前ニ立テ、之ヲ誤ツテ二指ニ見ルハ兩目互ニ獨立スル故ナリ。今右眼ヲ主トシ左眼ヲ從トセバ其誤リヲ生ズル憂ヒナカルベシ。即チ右眼ヲ以テ正視シテ左眼ハ之ニ附隨シテ目的ヲ見ルトキハ兩眼ニテ見ルト雖一物ヲニタ筋ニ見ルコトナク、一本ノ指ハ髓カニ一本ニ見ユルナリ。決シテ一ヲ二ト見ルコトナク一ハ一ト見ユルナリ。

雖見一未解目眩矣。

眩ハクラムトモミダル、トモ、マヨフトモ、ウタガハシトモ讀ム。

解ハトクト云フ義ニテ會得スルコトナリ。前述ノ方法ニヨレバ一指ヲ誤ツテ二指ト視ル恐レナカルベシト雖未タ眼ノ迷ヒハ解ケザルナリ。初歩ノ人ハ矢ヲ放ツ際ニ目ヲ閉ヅルコトアリ。之レ亦目クラムナリ。之等ハ何レモ心氣靜定セザル爲メナリ。

以靜定之自視自目則其目不眩而明白快然。

靜ハシヅカ、定ハサダマルト讀ム。此靜カニ定マルト云ヘルハ心氣ノコトニシテ業ノコトニアラズ。心氣靜カニ定マツテ動カザレバ眼オノヅカラ定マル故其目眩セズ。目的物ヲ見ルコト分明ナリ。故ニ明白快然ト云ヘルナリ。快ハコ、ロヨシト讀ミ、眩ハ矢張りクラムト讀ム。自視自目トハ心ヲ落チ附ケテ自ラ能ク注意シテ見ルコトナリ。

的術中ノ第一ノ要目ハ此視術ニシテ兩目一視ト靜定之自視自
目ヲ含ム。

二曰目術。一視正瞪而得無目瞬。

的術中ノ第二節ハ目術ナリ。目術トハ目ノ使ヒ様ナリ。目術ト視
術トハ相似通ヒ居ルガ如クニシテ大ナル相違アリ。視術ハ的ノ
見方ニシテ的ト眼トノ關係ヲ説明シタルモノナリ。目術ハ目ノ
働キ方ハ如何ニスベキカト云フニアルナリ。即チ視術ニ於テ述
ベタルコトヲ完全ナラシムルニハ眼ノ活動ヲ完全ナラシメザ
ル可ラズ。之レ目術ノ説明スル所ナリ。

一視トハ前ニ述ベタル兩目一視ニシテ、目的物ヲ兩目ニテ一筋
ニ見ルコトヲ云フ。正瞪ノ瞪ハミハルト讀ム。故ニ正瞪トハ正シ
クミハルト云フコトナリ。目ヲミハリテ直視スル貌ナリ。心氣ヲ
治メ、眼精ヲ穩カニシテ目的物ヲ正シク視ハルコトナリ。目瞬ナ
キコトヲ得トテ目バタキセヌコトナリ。前ニ言ヘル如ク心氣靜
カニ定マリテ正シク眼精ヲ張リテ見ルトキハ目バタキマジロ
グコトナシ。目瞬ナルモノハ心ニ恐怖ノ念アルカ、又ハ不安定ニ
シテ心氣靜マラザル所アルガ爲メナリ。之レモ皆初心者ノナス
コトナリ。

初發矢爲目瞬。故鏃的虛昧也。

目瞬ハマバタキスルコトニシテ、前ニ記スガ如ク初心ノトキハ
恐レコハキ心アリテナス者多シ。故ニ目瞬ヲナスナリ。鏃ハヤジ
リ、的ハマト、虛ハムナシ、味ハクラムト讀ム。サレバ鏃的虛昧トハ

鏃ト的ト心トノ關係ナキコト、即チ矢ヲ發スルモ心ハ矢ニモ的ニモ追隨シアラザルニヨリ、矢ハ的ニ向ハズシテ、丸デ空ヲ射ルガ如キナリ。

初心ノ人ハ一視正瞪ナルコト能ハズ。心靜カナルコトナクシテ矢ヲ放ツ。故ニ目瞬ヲナス、從ツテ矢ハ空昧ノ中ヲ走リテ的中ヲ期シ難キナリ。必竟目瞬ヲナストキハ心ハ的ニ移ラズ、寧口的ノ所在ヲ忘却スルナリ。

依_レ意_ニ虛_シ目_ハ虜_ト也_ヲ云_フ何_レ治_ス之_ヲ。

意ハコ、口、虛ハムナシ、虜ハウバハル、ト讀ム。鏃的ニ對シ心虛シク昧ムト云フコトハ心空虛ニシテ之ト決スル所ナク、目ハ他物ニ虜ハル、ニヨルナリ。初心ノ内ニハ能クアルコトニシテ老

成ノ人ニハ少シ。之ヲ直スニハ如何ニセバ可ナランカ。此間ヲ發シテ初心ノ者ヨリ順次修業スベキ筋道ヲ説キ起スナリ。

發_ス空_弓、安_シ意_ヲ於_テ正_淳。

空弓ハカラユミナリ。正淳トハタマシクスナホト云フコトナリ。目瞬ヲナスコトハ心空虛ニシテ目ハ他ニ虜ハル、ナリ。而シテ之ヲ治スルニハ空弓即チ弓ニ矢ヲ番ヘズシ一杯ニ引キテ、之ヲ放シテ弦ノ障リナキコトヲ覺ユルナリ。之レ矢ノ中_ニ外_ニレニ關係ナケレバ意ハ的ト矢トニ奪ハル、ノ憂ナク正シクスナホニ安ンジテ引クコトヲ得ルナリ。

此空弓ヲ引クコトハ初心ノ人ノ大ニ難シトスル所ナレバ最初ハ之ヲ引キテ弦ヲ放タズニ初メノ位置ニ戻シ、弦道ヲ能ク覺エ、

後ニ之ヲ放ツコトヲ習フベシ。空弓ニアラザル彼ノ卷蕙ニ於テ
モ幾分カハ目瞬ヲナスヲ防グヲ得ベシ。弓ヲカラ引キシテ之ヲ
放ツコトヲ得ルニ至レバ意ハ正シク素直ニ安ンゼシムルコト
ヲ得ルナリ。

以之習之則不目瞬。

之ヲ以テ之ヲ習フトハ空弓ヲ引キテ之ヲ發シテ、意ヲ正淳ニ安
ンズルコトヲ修行スルコトナリ。斯クシテ熟練スレバ意虛シク、
目虜ハル、ノ病ナク、目瞬スルコトナキニ至ルベシト云フ。

由自目瞪也。

空弓ヲ發スルコトヲ練磨シテ意ヲ正淳ニ安ンジテ遂ニ目瞬ス

ルコトナキニ至ルハ之レ自然ト明カニ瞪ルコトヲ得ルガ爲メ
ナリ之レ目術ノ終局ノ主意ナリ。

三曰妙術於小成大。

的術中ノ第三ガ妙術ナリ。妙ト云フ字ハタヘトモ、クハシトモ讀
ンデ、視術目術ニ於テ自得スルコトアリテ、漸次巧妙ノ位ニ進ミ
タルナリ。自得ノ位茲ニ至レバ小キ物ヲ見テモ大キク見ユルナ
リ。心靜カニ體定マツテ動クコトナキ故ニ小ナル物ヲ見テモ之
ヲ見尖フ憂ナク自然小ナル物ヲ見レドモ大ナル物ヲ見ルト等
シキ結果ニ至ルナリ。之レ即チ竹林派ニ云フ所ノ雪ノ目附、着已
着界ト云フト同義ナルベシ。雪ノ目附、着已着界ハ何レモ規ヒ物
ニ關スル目錄ノ箇條ナリ。

見的^レ精妙^{ナリ}也。

精妙トハクハシク不可思議ナリト云フコトナリ。的^ヲ見ルニ心ハ正淳ニシテ邪曲ナク目ハ正瞪ナルヲ以テ志ス所ノ的ハ不可思議ナル程大キク見ユルナリ。

初^メ引^ク弓^ヲ而見^ル寸^ノ的^ヲ其量^ハ如^シ銖^ニ。

初^メ弓^ヲ引^クトハ初心ノ者ヲ指ス。初心ノ人ハ視術、目術ニ於テ不完全ニシテ至ラザル所アルヲ以テ一寸ノ的ヲモ尙一銖ノ如ク小サク見ユルナリ。銖トハ元來ハ秤ノ名ナレドモ、此所ニテハ極メテ小サキ量ニ例ヘタルナリ。兎角弓ヲ射習フ際ニハ如何ナル種類ノ的ニテモ其實物ヨリモ小サク見ユルモノナリ。之レ規

フ物ニ執着^シ心アルガ爲メナリ。則チ目附ノ心得或ハ目附ノ法則ヲモ辨ゼザルナリ。此理ハ修行スルニ從ツテ追々ト分リ知ルモノナリ。

脱^シ紛^ヲ解^キ惑^ヲ而見^ル的^ヲ其量^ハ如^シ圖^ニ。

紛ハマギラハシキコト、脱ハヌクト讀ミ、惑ハマドヒ即チ迷^ヒヒノコトニシテ解ハトクト讀ム。紛ヲ脱シ惑ヲ解クトハ前ニ述べタル視術、目術ニ於ケル一指ヲ二指ニ見ルコト、或ハ目眩^ムコト及ビ目瞬スルコトノ諸^ノ弊害ヲ除キ去ルコトナリ。恰度字義ニ當ツレバ兩目一視ト云フコトハ紛ヲ脱スト云フコトニテ、自視自目及ビ一視正瞪ト云フコトガ惑ヲ脱スト云フニ適スベシ。量ハ大サト云フニ同ジ。圖ハ實物ト云フ意味ナリ。サレバ其量圖

ノ如シトハ大サハ實物ノ通りニ見ユルナリト云フコトナリ。
ツマリ視術、目術ヲ會得シテ的ヲ見ルトキハ的ノ大小ハ實際
ノ大サダケニ見エテ、之ヨリ大キクモ小サクモ見エザルナリ。

態達氣達而見的圖量如倍。

態トハ射形ノ外形ニ顯ハレタル所ヲ云フ。氣トハ心氣ト云フニ
同ジク、精神ノコトナリ。此所ニ態達シ氣達シト云フコトハ上ニ
云ヘル視術、目術、妙術ノ三ツニ達シタルヲ云フナリ。斯クノ如ク
ナレバ其見ル所ノ的ハ大サ恰モ二倍ニモ見ユルモノナリ。從ツ
テ規ヒモ夫レダケ正確トナルベシ。圖量トハ實物ノ大サト云フ
コトナリ。

變成化成而見的其大如圍。

視術、目術、妙術ニ於テ精妙ノ域ニ至リ、應用變化ノ理ヲ辨ズルニ
至レバ其見ル所ノ的ノ大サ益増大スル氣味トナリ。一ト抱ヘモ
アル程ニモ見ユベシトナリ。圍トハカコムト讀ミテ一ト抱ヘト
云フ意ナリ。

是道妙成。

右ニ云ヘル如ク變成化成ノ自由ヲ得タルコトヲ妙成ト云フナ
リ。ツマリ之ヲ言語ニイヒ表ハスコトヲ得ザル程マデニ巧ミニ
ナレルナリ。口ニテ言フコト能ハズ、形ヲ以テサトシ難キモノハ
技藝ノ特長トスル所ナリ。

其二有三。

其二トハ的術ノ次ギナル弓術ヲ指スナリ。弓術ニモ亦三ツノ術アルナリ。即チ一ニ押術、二ニ引術、三ニ分術ナリ。以下順次ニ之ヲ説明スルナリ。

一曰、押術。左臂申以淳直。不以反枉。

弓術ニ於ケル第一番目ヲ押術トナス。押術トハ弓ヲ押ス術ナリ。左臂トハ左ノ腕ナリ。申ヌルニ淳直ヲ以テシトハ弓ヲ押スニハ手先バカリニテ押スコトナク左ノ腕ヲ眞直ニ延バシテ押スベシト云フコトナリ。反枉トハソリマガルト讀ミテ左ノ腕ノソリ或ハ反對ニ曲ルコトヲ云フ。之レハ左ノ腕ノ眞直ナラザルコトニテ宜シカラザルコトナリ。弓ヲ握ルニ就テハ種々ノ骨法(骨法トハ體ニ合ハシタル法則ト云フコトナリ)アリテ竹林派ニテ云フ所ノ押大目ト云フコトモ其

一箇條ナリ。(押大目トハ押手ハ大切ナル目次ト云フコトナリ)弓ヲ引クト云フコトハ一方カラ云ヘバ左手ニテ弓ヲ押スコトナリ。左臂申ヌルニ淳直ヲ以テシト云フモ、手ノ裏ガ完全セザレバ押術ヲ全フスルコト能ハズ。此事ハ次項ニ述ブルト雖、弓ヲ打ち起シテヨリ引キ取りニ掛カルニ從ヒ、次第ニ左臂ニ弓ヲ押シカクル味ヒテ其人ノ骨法ニ適應セシメ淳直ナラシムルトキハ押スニ從ツテ肩落チ小腕及ビ二ノ腕ニテ受クルニ至リ、其形眞直ナレバ反枉セズ。即チ反リ曲ル所ノ患ナキモノナリ。此心ヲ讀メル歌ニ

剛は父懸は母なり矢は子なり

片思ひして子は育つまじ

いか程も強きを好み押せ力

引くに心のありと思へば

懸以大勝。不以手掌。

懸トハ弓ヲ押し掛クルコトヲ云フ。勝ハマタト讀ム。大勝ハ大指ノマタノコトナリ。大指ノ根ニテ弓ヲ押し掛ケヨト云フ義ナリ。手掌ハタナコ、ロニテ、手掌ニテ弓ヲ握リツメテハ宜シカラズ。弓ヲ掌ニテ握レバ腕ニ弱味ヲ生ズルノミナラズ弓ノ活動ヲ妨グルコト尠カラズ。弓ヲ握ルニ法アリ。弓ヲ押しカクルトハ弓ニ大事ノ手ノ裏ノコトナリ。此手ノ裏悪シケレバ弓ヲ押しスニモ手掌ニテ押しスコト、ナル。此事ヲ骨法ノ手ノ裏或ハ吾加、驚中杯トテ品々ノ教ヘアリ(此事ハ弓術講義録ニテ説明セリ)日置ノ歌ニ
手の裏は竹に藤巻くごこくにて

風に従ひしめゆるみあり

之レ手ノ裏ノ有様ヲ善ク形容シタル言葉ニシテ、手ノ裏ハ竹ニ藤ノ巻キ附キタルガ如シ。風ニ従フト云フコトハ心氣及ビ勝手ノ收リヲ云フ。其心氣及ビ勝手ノ收リ工合ニヨリテ締メタリ緩メタリスルナリ。即チ弓ヲ押しス所、手ノ裏ニテ受クル所、氣分ノ起リ立ツ所、勝手ノ收マル所等ノ扱ヒナリ。其時々ニ従フテ扱フモノ故ニ甚ダ六ヶ敷モノナリ。然ラザレバ皆手掌ノ活用ノミトナル。

押以躬肩。不以手臂。

躬肩トハ體トカタトチ云フ。躬肩ヲ以テ押しストハ骨法(骨法トハ其人ノ骨格ニ應ズル規矩ト云フコトナリ)正シク心氣ト身體ト一致シテ押しス事ナリ。躬肩ニテ押しス考ヲ以テスレバ手先キハ或

ハ自然ニ延ビルモノナリ。手臂ヲ以テセズトハ手先キ或ハ腕先
キニテ押スナカレト云フコトナリ。手先キ又ハ腕先キバカリニ
テ押ストキハ左肩高クナリテ骨法違フ故ナリ。心氣ト身體トノ
一致和合ヲ得ルハ骨法ヲ正シウスルニアリ。抑射法ナルモノハ
其骨法ヲ正シウスル所以ナリ。サレバ骨法ニ違フ所ノ動作ハ射
法ニ背クモノナリ。足踏ヨリ初メ胴造打起等皆今後ノ骨法ヲ正
ス爲メナリ。押手、手ノ裏ニ至リテ益其必要ヲ見ルナリ。

肩以落下。不以昇上。

前ニ述ブル所ノ趣意ヲ誤リテ、押スニ躬肩ヲ以テシトアルヲ以
テ肩先キニノミカチ入ル、トキハ左肩高ク上リテ、又骨法壞ル
、ナリ。サレバ茲ニ特ニ注意シテ肩ハ落下スベシトセリ。左肩昇

上スレバ射ノ活用叶ハズ、行キ詰リテ業ヲ施スコト能ハズ。世俗
ニテ左肩ヲ落シ、又ハ左肩ノカチヌク杯云フハ皆此事ナリ。甚シ
キハ左ノ腕ノカチ緩メルナド云フモノアリ。是レ射ノ正法ヲ辨
ゼザルモノナレバ致シ方ナシ。手ノ裏ヲ骨法ニ取り、左肩ハ所謂
五部ノ詰(五部ノ詰ノコトハ弓術講義録ニ説明セリ)ノ一要部タ
ルモノナリ。又三ツノ拳、十重、八方詰等ノ言葉ヲ以テ説明セリ。斯
クノ如ク種々ノ名目ノ下ニ其骨法ヲ説ク。皆其結果ハ自然ニ左
肩ハ落下シテ十分ニ押術ノ業ヲ施スコト自由トナルモノナリ。
彼ノ中古ヨリ流行セシ所ノ堂前指矢ナルモノモ自然伸合ハ押
手ニアルコトヲ發明シタル所以ナリ。

二曰引術。右臂締以屈直。不以勾曲。

弓術ノ中ノ第二節ハ引術ナリ。引術トハ弦ヲ引ク術ナリ。右臂トハ右ノ腕ナリ。屈ハカハム、直ハマスグト讀ム。右ノ腕ハカハミテ眞直ニスベシトナリ。日置ノ教則ニ弦ハ中弦ヲ引クベシトアリ。弦ノ引キ方ニ上弦、下弦及ビ中弦ノ三通リアリ。上弦下弦ヲ引クコトヲ又平附、捻附ト稱ス。竹林派ニテハ又日ノ表、日ノ裏ナル名目ヲ附シタリ。上弦ヲ引クトキハ平附トナル。之レ即チ日ノ表ナリ。右ノ拇指ヲ上向ニシテ之ニ弦ヲ掛ケテ引クコトナリ。之ニ反シテ下弦ヲ引ク時ハ捻附トナリテ、所謂拇指ノ形ハ日ノ裏トナル。的前ニテ引ク弓ハ多ク花形或ハ手際弓ト云フベキモノナレバ下弦ヲ引キテ平附トナルヲ宜シトシ、指矢前ニ於テハ上弦ヲ引キテ平附トナルヲ宜シトス。然レモ實際ハ中弦ヲ引クヲ最上トス。故ニ弦ヲ右肩ニ引キ來レバ勝手ノ肘ハ後ノ平骨ノ下ニ詰

ル味ヒニテ屈曲シタル儘ノ筋骨自然ニ直ニシテ骨法正シ。之レ曲中ノ直ナリ。故ニ之ヲ屈直ト云フ。勾曲トハ二字共ニマガルト讀ミテ、勝手ノ肘ノ一文字トナリタルヲ忌ム。斯クテハ其形ハ直ナルガ如キモ筋骨直ナラザルナリ。之ヲ勾曲ト云フナリ。或ハ手ノ首折レテ肘ノ下リタル類モ亦勾曲ナルベシ。右手ノ工合ヲ咏ミタル日置ノ歌ニ

弓手馬手貫をぬきたる如くにて

胴は柱よ足は大挽よ

ト云ヘリ。骨法違ハズシテ引ケル姿ハ實ニ斯クノ如キモノナリ。

肩以上離不以下著。

此所ニ肩トハ右肩ヲ云フナリ。上離トハ右手ノ拳ガ右肩ノ上ニ

離ル、方宜シト云フコトナリ。如何トナレバ右拳ガ肩ヨリ上リテ離レテ受ケ居ルトキハ矢ノ離レ輕クシテ、ハツミ付クモノナリ。又骨法ニ合ヒテ引キ渡シ來リタルトキハ必ず肩ニ高く受クルモノナリ。然ルトキハ諸部ノ曲尺正シクナリテ已レモ能ク合點ノ行クモノナリ。之ヲ俗ニ云フ所ノ浮勝手或ハ退附杯ノ類ト混同スベカラズ。肩ニ右手ノ拳ノ附クト附カヌトハ其人ノ生質ニヨルモノナリ。下著トハ下リテ著クコトニテ上離ノ反對ナリ。即チ右拳ガ下リテ右肩ニ附キ過ギタルコトナリ。右拳下リテ右肩ニ附キ過グルトキハ拳ハ肩ニモタレテ離レ難クナルモノナリ。是レモ骨法ヲ離レタルタメニ此癖ヲ生ジタルナリ。

懸以拇腹。不以頭高。

拇腹トハ大指ノ腹ヲイフ。懸クルニトハ指ヲ弦ニ懸クルコトヲ云フ。右手ノ大指ヲ弦ニ懸クルニハ大指ノ腹ヲ以テスト云フ意ナリ。即チ弦ヲ擲ムハ大指ノ腹ノ二ノ節ノ中程ニアラシムルナリ。頭高ヲ以テセズトテ大指ノ頭ノ方ニ高く懸クルコトハ宜シカラズトナリ。若シモ大指ノ中程ヨリ少シニテモ上ニ弦ヲ懸クルトキハ力弱クナリテ矢ニ勢ナシ。強ヒテ力ヲ入レントスレバ骨法クツレテ甚ダ宜シカラズ此懸ノ工合ニ就キテ竹林派ニテハ一文字、十文字、弦擲、惠休善力等ノ綱目ヲ設ケタリ。又四ツ鞞、三ツ鞞ニヨリテ懸ケ口ニ相違アリ。能ク味ヘテ用フベキコトナリ。

懸ニ關スル綱目ハ弓術講義錄ニ詳カナリ

引以身氣。不以手力。

引クニ身氣ヲ以テシトハ弓ヲ引クニハ體力ノミニテセズ、體力ト精神ト和合一致シテ引クヲ云フ。體力ト精神ト離レクニナリテ引ク時ハ胴造狂ヒ、體退キ或ハ伏シテ骨法違ヒ見苦シキモノナリ。弓ヲ引クト云フコトハ元ヨリ身體ノ力ニヨルコトナレドモ精神上ノ働キ之ニ伴ハザル可ラズ。手力ヲ以テセズトハ手ノ力バカリニテ引ク可ラズト云フナリ。手ニバカリ力ヲ入レテ引クトキハ骨ヲ折ルコト多ク、手首曲リ、或ハ折レナドシテ骨法ヲ崩スモノナリ。

三曰分術。持以無爲。不以意爲。

弓術ノ中ノ第三節ニ當ルモノハ分術ナリ。分術トハ弓ヲ引キ收メテヨリ矢ヲ發スルマデヲ云フ。矢ヲ發スルコトハ兩方ノ拳左

右ニ分ル、故ニ之ヲ分術ト云フナリ。分術ハ射術最終ノ動作ナレバ足踏ヨリ始メテ諸種ノ骨法ハ皆此所ヲ整ハシムル爲メニナスナリ。

持ハタモツト讀ミテ弓ヲ引キ收メテ目當物ヲ覘フ間ヲ云フ。又之ヲ抱エトモ云フ。是ヲ竹林派ニテハ會ト云フ。會ト云フコトハ弓一代(一射)ヲ人間ノ一生ニ譬ヘテ用ヘタル言葉ナリ。ツマリ之ハ佛語ノ會者定離ノ言ヲ借りテ用ヒタルナリ。故ニ此持ト云フ言葉ハ中々大事ノ奧秘ナリ。

無爲ヲ以テシトハ爲スコトナシト讀ミテ、唯何トナク溫和ノ氣ノ盈チタルヲ云フ。此無爲ト云フコトニ數々ノ教ヘアリ。其口傳等筆紙ニ述ベ難キ所多シ。單ニ無爲トバカリ云フモ其意解シ難シ。初心ノ中ハ無爲タルニ似テ無爲タルニアラザルモノナリ。之

レ即チ空ナルモノナリ。無爲ハ空ニアラズ。無爲ハ特更ニ手作セヌト云フマデノコトナリ。無爲ノ反對ハ有爲或ハ故意ト云フヘキガ本然ナルベキモ此所ニテハ意爲ト云ヘリ。即チワザト餘計ナコトヲナスコトナリ。人間一生ノ間ニ於テモ若年ノ中ハ無爲タルコト易シト雖、中年ニ及ビ社交ニ馴ル、ニ及ンデハ無爲タルコト難ク兎角物事ヲ巧者ブリテナシタガルモノナリ。弓ニ於テモ同様ニテ修業ノ効積リテハ無爲タルコト難キナリ。此無爲ト云フコト、無念無想ト云フコトヲ混同スルモノアレドモ之レ大ナル誤ナリ。前ニモ述ブル如クニ無爲ハ其動作ヲ強ヒテナサヌト云フマデノコトナリ。無念無想ノ方ニ於テハ念ハズ想ハズト云フコトニテ純然タル心氣ノ働キヲセヌコトナリ。無爲ハ心氣ノ働キアリテ之ヲ外部ニ表ハサザルコトヲ云フ。全

クノ無念無想ニテハ弓ハ引ケヌモノナリ。

切以自期。不以吾意。

切モ亦離レノコトヲ云フ。自期トハ自然ノ程ライト云フコトニテ自然ニ來ルベキ時期ヲ云フ。切ルニ自期ヲ以テシトハ離レハ自然ニ到來シタル時期ニ至リテ離ルベシト云フコトナリ。

吾ガ意ヲ以テセズトハ自期ノ反對ニシテ故意ヲ以テ特更無理ニ放スコトヲ云フ。未ダ時期ノ到來セザルニ特更ニ放サントシ、或ハ早氣ト云フ病癖アリテ持チ堪ユルコト能ハズシテ放スモノモアリ、之レ亦自期ト稱スルコトヲ得ザルナリ。早氣ノ場合ニ於テハ放ス心ナキニ離レ行クガ故ニ又無心ナルニ似タリ。即チ自期ニ近キガ如シ。去リナガラ之レ亦自期ト稱シ難シ。何トナレ

バ實際離ルベキ時ニ離ル、ニアラザルヲ以テナリ。ツマリ自期トハ骨法其期ニ運ビ、心氣又其機ニ應ズルアリテ身體ト精神トガ相和合シテ滯リナク自然ニ離ル、ナリ。離レニ於テモ無心ノ離レナルモノアルルベキ筈ナシ。無心ニテハ弓ハ引ケヌモノナリ。心ハアリト雖時機未ダ到來セザルニ離ル、コトヲ吾ガ意ヲ以テ放スト云フナリ。

發^{スレ}以^レ調子^ヲ、不^レ可^ク以^テ手^ヲ作^ル。

發モ切ト同ジク離レヲ云フ。但シ發ハ心氣ニヨリテ離ル、コトヲ指シ、切ハ體力ニヨリテ離ル、コトヲ云フ。心氣ヨリ離ル、所ニ於テ自然ノ調子ナルモノアリ。此調子ヲ違ハズニ射ルコトヲ發スルニ調子ヲ以テシト云フナリ。即チ調子ニ遲速アリト雖、之

レ亦其人ノ力ノ強弱ニモヨルヘケレバ一様ニ述ブルコトヲ得ズ。此調子ヲハツレテ手先ニテ放スコトヲ手作ト云フ。故ニ手作ヲ以テセズトハ云フナリ。抑、此調子ナルモノハ弓ヨリ誘フ所アリテ之ヲ身ニ受ケテ心氣ヨリ起ル所ト合同シテ生ズルモノナリ。初心ノ者ニハ解スルコト能ハザルベキモ多少修業セシ人ハ自然ニ了解スベシ。

以^テ至^ル於^テ精^ニ、至^ル於^テ極^ニ、而^{シテ}態^ヲ成^ス。

精ハクワシ、極ハキワマルト讀ミ、射形ノ成就シタル所ヲ態成ルト云フナリ。之レ竹林派ニ云フ所ノ紫部ノ位ト云フ所ナルベシ。

歌ニ

一しほは薄くれあゐの身なれども

千しほになればむらさきの色

青楓秋の梢ぞすさまじき

紅葉重にあらしふくなり

ナドノ至ツテ高上ノ歌數首アリ。此弓一代ノ位ヲ竹林派ニテハ
五輪碎、十二字五位、蕙布絹綾錦等ノ位ヲ以テ教導セリ。(是等ノ綱目ハ
弓術講義録ニハ
詳カ)故ニ修業ノ位モ是ニヨリテ定マルナリ。兎ニ角得難キハ修
業ニアルナリ。

其三有二三。

其三ハ本書ノ三大綱目ノ終リニ位スル所ノ力術ヲ指ス。其力術
トハ各自ガ天稟ニ有スル所ノ力ヲ活用シテ以テ之ヲ射術ニ有
功ナラシムルコトヲ云フ。又其力術ニモ三ツノ綱目アルナリ。

一 生得無他力而有弓力。

力術中ノ第一個條ガ此弓カト云フコトナリ。生得トハウマレツ
キト云フニ同ジ。生得他力ナシトハウマレツキ全體ニ力ノナキ
コトヲ云フ。而シテ弓力アリトハ常ニハ餘リ力ノナキモノニテ
モ弓ヲ引クトキニ限リテ力ノアルモノヲ云フ。之レ又天稟ト云
ハザル可ラズ。

是天性射者習練則至於妙。

生レツキ力ナキモノニシテ弓ヲ引ク力ノミチ有スルハ之レ天
性ナリ。故ニ斯ル人ガ修練セバ次第ニ上達シテ妙ヲ極ムルニ至
ルベシトナリ。修練トハ修メ練ルト云フコトナリ。生レツキ弓力

アル人ハ骨力既ニ自然ニ法ニ合スル所アル故ニ修習練磨スレバ終ニ其妙ニ至ルベシトナリ。妙トハ言葉ニテ説明スルコトヲ得ズ、又他ノ人ノ眞似モ爲シ得ベカラザル所ノ長所ヲ云フ。之レ自然ニ自得スルナリ。天性ニ弓力アルモノハ習熟セザルモ始メヨリ相應ニ活用スルコトヲ得ルガ故ニ、却ツテ邪路ニ踏ミ迷フテ上手達人ニ至リ難キコトアリ。サレバ天性ニ弓力アルモノト雖是レノミヲ頼ミトスルコトヲ得ザルナリ。要ハ骨法ヲ能ク覺エテ修練スルニアリ。

二質得。總有力。而引大弓。

力術中ノ第二ガ體力アルモノニ就テ説明セルナリ。天性總體ニ力アリテ大弓即チ強キ弓ヲ引クモノアリ。之レハ俗ニ云フ所ノ

タチノ好き者ニシテ初メヨリ自然骨法ニ合フモノナレバ餘リ習ハズシテ數モ左程カ、ラヌ内ヨリ強キ弓ヲ引キ得ルモノナレバ徳アルコト限リナシ。サレバ修業ニ左マデ勞セズシテ上達早キモノナリ。

其態在、不逆弓。

其態弓ニ逆ラハザルニアリトハ天性強キ弓ヲ引ク者ハ其業自然ニ弓ニ逆ラハズニ素直ニ引クベシト云フコトナリ。力ノ強ヲ待ンデ無理ナル引キ方ヲナスハ宜シカラズ。

而以術強、不以我強。

術ノ強キヲ以テシトハ是レマデ述べ來リシ弓術ノ射形ヲ規矩

ニ合スコトヲ云フ。射形規矩ニ合スルトキハ自然ト強ミヲ生ズルモノナリ。之ヲ術ノ強ト云フ。我が強キニ任セテ弓ヲ引ケバ骨法違ヒテ矢ニ渡ル強味ト云フモノヲ失フモノナリ。サレバ此所ニ我が強ヲ以テセズト云ヘルナリ。元ヨリ我が強ヲ頼ミテ弓ヲ引ケバ災ヲ成スコト多シト雖又自カアルモノハ之ヲ利用スレバ其利益ハ實ニ妙カラザルナリ。

三習得。押以弓受不以力強。

力術中ノ第三ノ中ニ弓受ト云フコトアリ。押術中ノ諸法ヲ習修練磨シ熟得スレバ骨法オノツカラ正シク、勝手ノ弦ヲ引クニ從ヒ押手ハ弓ヲ押シテ勝手ノ力ニ負ケヌ様ニ弓ニテ受ケ居ルコト之ヲ弓受ト云フナリ。力強ヲ以テセズトハ力ノ強キヲ頼ミテ

骨法ニヨルコトナク我儘ナラザルヲ云フ。之レ押手ニ關スル事項ニシテ押手ノ手ノ裏ヲ自然其術ニ合ハシムルコトヲ云フ。

引以弦受不以力剛。

又弦受ト云フコトアリ。之レハ前ニ述ベタル引術中ノ諸法ヲ熟得スレバ筋骨ノ曲直自ラ正シク、自然ト術法ニ合ヒ、押手ノ弓ヲ押スニ從ヒ勝手ニテ弦ヲ引キ取ルニ當リテ無理ナルコトナク能ク弦道ヲタドリ來ラシムルコトヲ云フ。力剛トテ力ノ強キヲ頼ミテ引ク可ラズト云フコトナリ。然ルニ世ニハ此法則ヲ辨ゼズシテ中古ヨリ堂射ニ多ク悪用セラレ、一時ノ弓力或ハ自力ヲ頼ミテ功ヲナスコトヲ得ベシト心得、其俗後世ニ殘リテ今日尙多ク之ヲ見ルハ慨シキコトナリ。

分クニ以テ身受ト。不レ以テ身ヲ作ル。

此所ニハ身受ト云フコトヲ説明ス。之レハ前ニ云フ所ノ分術中ノ諸法術ヲ熟得スレバ骨法正シク、筋骨自ラ延ビ、肩臂胸骨ノ諸部ニテ分ル、ナリ。是ヲ身受ト云フ。身作トハ左右ノ手ノミニテ分開スルコト、或ハ胸ヲ張り出シテ矢ヲ發スルノ類ナリ。身作ナルトキハ矢ノ出ツルコト穩カナラズ。見苦シキモノナリ。此押術、引術、分術ノ三ツハ射術ノ大眼目ナレバ弓術ノ綱目ノ外ニ再ビ力術ト稱スル綱目ヲ設ケテ是ヲ詳説シタルナリ。

發スルニ以テ術受ト。不レ以テ手ヲ爲ス。

發ハ矢ヲ放ツコトナリ。術法ヲ意トセズ、自然ト術法ニ合フテ發

スルコトヲ術受ト云フナリ。手爲トハ手先ノ業ノミニテ發スルコトヲ云フ。前ニ述ベシ所ノ發スルニ調子ヲ以テシ、手作ヲ以テセズトハ少シク其趣ヲ異ニス。手作ノ方ハ其順序ヲ設ケテ作爲スルコトヲ云フナリ。然ルニ手爲ノ方ハ重ニ手先ノ力ニテスルコトナリ。

是此射術。務則有功。棄則失利而已。

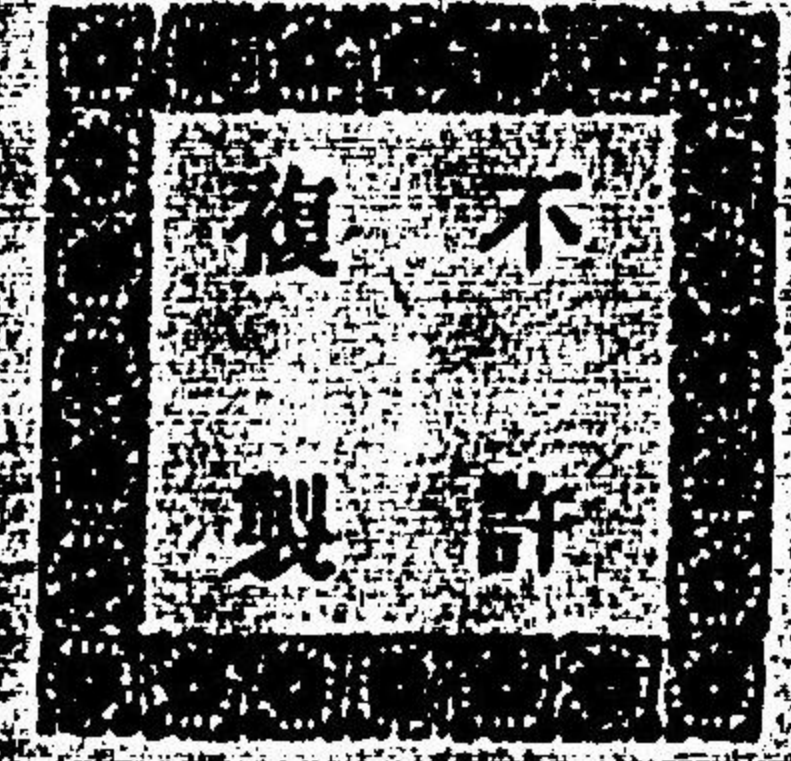
是レマデ述べ來リシ所ノ射術ノ諸法ヲ懈怠ナク修業スルトキハソレダケノ功アルベク、若シ是ヲ棄テ、願ミザレバ利ヲ失フベシトナリ。此書ヲ讀ミタルマデニテ業ヲ修メ學バザルトキハ用ニ立たズ、益ナシト云フコトナリ。

射法本紀詳解 終

246
195

明治四十三年五月二十三日印刷
明治四十三年五月二十六日發行

射法本紀詳解
定價 金貳拾五錢



發行所 大日本弓術會

東京市下谷區入谷町二十四番地

編輯者 根 矢 熊 吉

東京市下谷區入谷町二十四番地

印刷者 友 部 周 次 郎

東京市下谷區西町九番地

印刷所 島 根 堂

東京市下谷區西町九番地

射法本紀詳解 終

明治四十三年五月二十三日印刷
明治四十三年五月二十六日發行

射法本紀詳解附

定價 金貳拾五錢

發行所 大日本弓術會

東京市下谷區入谷町二十四番地

編輯者兼 根矢熊吉

東京市下谷區入谷町二十四番地

印刷者 友部周次郎

東京市下谷區西町九番地

印刷所 島根堂

東京市下谷區西町九番地



246
195

